

# 参考資料

## 医道審議会 歯科医師分科会 報告書

～シームレスな歯科医師養成に向けた共用試験の公的化と  
いわゆるStudent Dentistの法的位置づけについて～

- ※ 本参考資料は、報告書の理解に役立つよう、分科会におけるこれまでの議論で各委員や参考人から提出された資料の一部をまとめたものであり、必ずしも分科会として合意されたものではない。
- ※ 個別の資料の詳細については、分科会資料、議事録を参照されたい。

# シームレスな歯科医師養成に向けた改革全体案

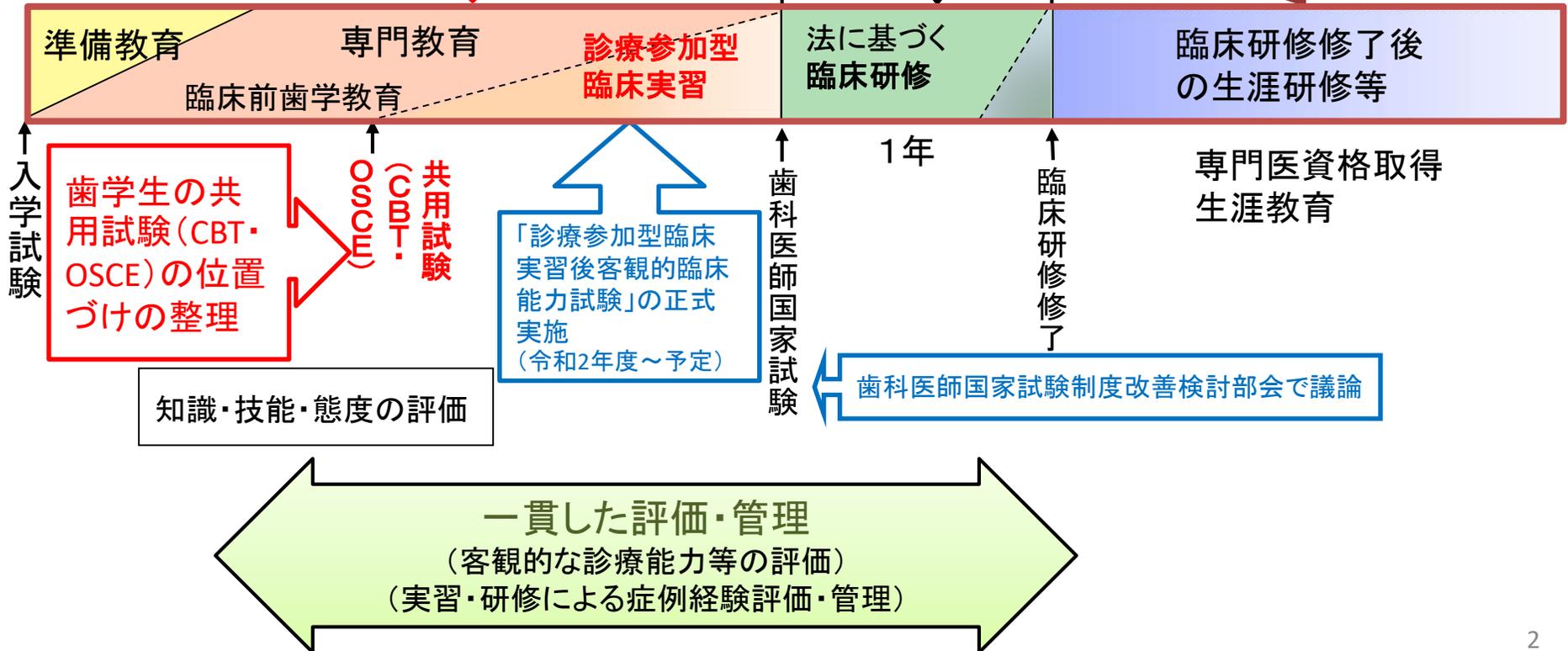
医道審議会歯科医師分科会	資料 1 [改]
令和元年9月2日	

歯学生が行うことができる歯科医行為の考え方の整理(H14厚労科研報告書)、臨床実習で行う内容と到達目標の整理による臨床実習の充実(H28モデルコアカリキュラム「臨床実習の内容と分類」とStudent Dentistの公的化による歯学生の歯科医行為の法的な担保

今回の議論の対象

令和3年度の歯科医師臨床研修制度改革に向け議論中

臨床実習と臨床研修の充実を通じ、基本的な診療能力の修得が早期に可能になるよう取り組みを推進



# 卒前教育における共用試験導入、臨床実習に関連する議論

医道審議会歯科医師分科会

資料  
1

令和元年9月2日

## 歯学教育の改善に関する調査研究協力者会議（文部省、昭和62年）

- 教育目標の明確化、カリキュラム改善、臨床実習充実と評価、卒前教育、卒後研修等多くの提言

## 「21世紀医学・医療懇談会報告」第1次～第4次報告（文部省、平成8年～平成11年）

- 全国的に一定の水準を確保するために「**共通の評価システムを作る事を検討**」と明記

## 「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について－学部教育の再構築のために－ （文部科学省、平成13年）」

- 学部教育内容の精選＝「**モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン作成**」
- 臨床実習開始前の適切な評価システム構築＝**共用試験システムの開発**

## 平成12年の歯科医師法改正（臨床研修必修化）以降の教育改革の取組

- 平成13年：「**歯学教育モデル・コア・カリキュラム**」策定
- 平成14年：「**歯科医師卒前臨床実習指針に関する調査研究**」（厚生労働科学特別研究）
- 平成17年：診療参加型臨床実習開始前に備えるべき知識と、技能・態度を評価する「**共用試験**」を正式実施（CATO）
- 平成28年：「**歯学教育モデル・コア・カリキュラム**」を改定（第4次改定）
  - ・ 医学教育モデル・コア・カリキュラムと一部共有化
  - ・ 「**臨床実習の内容と分類**」を明確化

## 直近及び現在検討中の取組

- 令和元年度：全歯科大学で、CBT/OSCE合格者に認定証（Student Dentist）を発行
- 令和3年度臨床研修制度改正に向け、到達目標の見直し
  - 「**歯学教育モデル・コア・カリキュラム**」「**歯科医師国家試験出題基準**」との連続性について検討
- 令和2年度臨床実習後の技能・態度を評価する「**Post CC OSCE**」の正式実施に向け、トライアル実施（CATO）

# 共用試験実施の概要 (H13年からのトライアルを経て (H17年12月から正式実施))



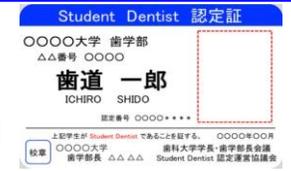
医道審議会歯科医師分科会	資料 2
令和元年10月28日	



CBT実施会場例  
1ブロック60分/6ブロック  
/ 合計320設問  
ブロック内でランダム出題

共用試験合格

StudentDentist認定証の発行  
(認定運営協議会)



成績返却  
全国成績  
解析結果

実施  
データ  
回収

事前調査・チェック  
練習セット  
実施セット等  
機構派遣監督者を派遣

CBT実施小委員会等  
公益社団法人医療系大学間  
共用試験実施評価機構  
(CATO) 試験実施本部  
OSCE実施小委員会等

CATOセンター  
サーバー

機構派遣監督者・認定外部評価者・内部評価者の参画

全国成績  
解析結果

評価  
成績  
報告

事前調査、講習会等  
学習評価項目  
課題 (シナリオ)  
評価法、評価表  
機構派遣監督者・評価  
者派遣

実施体制準備  
OSCE実施・評価



学生はステーションを順に回り、態度と基本的診察能力の評価を受ける。

病院実習 (診療参加型臨床実習) に参加

2018共用試験受験実績

医学	本試験	9,384人
	再試験	681人
歯学	本試験	2,494人
	再試験	598人

# CBT (Computer Based Testing) の実際

項目反応理論 (IRT:Item Response Theory) の利用

- 出題問題の事後評価 (項目特性曲線)
- 受験生毎に異なる出題セット間の難易度調整 (難易度の等質化)
- 受験生の能力評価 (IRT標準スコア)

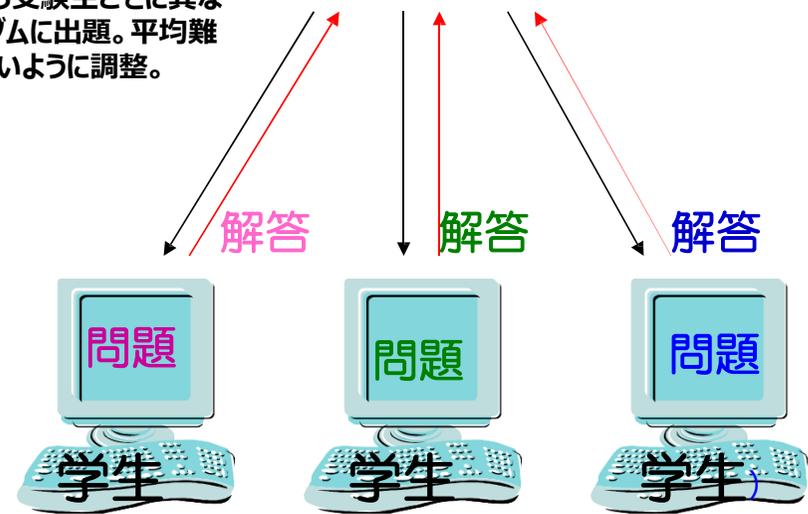


公益社団法人  
医療系大学間共用試験実施評価機構  
センターサーバー



項目特性値を持った大量の問題をプール

問題プールから受験生ごとに異なる問題をランダムに出題。平均難易度に差がないように調整。



Common Achievement Tests Organization  
自動採点

- 新規作成問題 (採点対象外) + プール問題 (採点対象) の組合せによる出題問題セット作成と調整作業
- CBT実施セット準備・配布
- 新規出題問題の事後評価作業  
問題の特性評価、プール問題候補決定  
プール問題の特性変化検討
- 共用試験実施評価機構委員によるブラッシュアップ集中作業
- 新規出題問題決定
- 各大学へ問題作成依頼
- 各大学でのブラッシュアップ後に新規作成問題提出

参加大学へ成績送付

試験端末(受験者毎に問題が違う)

- 出題数 = 320設問/学生/1日
- 全6ブロック : 1ブロック60分
- ブロック1 ~ 4 : 単純5肢択一形式60設問
- ブロック5 : 多選択肢順次回答2連問形式20設問 / 順次解答2連問形式20設問
- ブロック6 : 順次解答4連問形式40設問

# CBT問題作成から成績返却まで

- 各歯科大学・歯学部への作成依頼
- 各歯科大学・歯学部でのブラッシュアップ

説明会・FD講習会開催

- 各歯科大学・歯学部委嘱教員によるブラッシュアップ
- 問題評価・プール化専門委員会による試行問題決定

- 試行問題＋プール問題（採点対象）の組合せによる出題
- 問題セット作成と調整作業（総覧）
- CBT実施キット準備・配布

- 各歯科大学・歯学部でCBT実施（モニター派遣）

- 各歯科大学・歯学部からCBT実施キット回収
- 機構内で自動採点（IRT標準スコア値推定も含む）

- 事後評価  
（試行問題＋  
プール問題）

- 各歯科大学・歯学部へ成績返却
- CBT解析結果の公表

# CBT問題の質の保証(1)

## ➤ 共用試験CBT

- ✓ 異なる時期に試験を行い、能力を評価する
- ✓ 問題プールから受験生ごとに異なる問題をランダムに出題する
- ✓ 出題セットの平均難易度に差がないようにする必要がある
- ✓ **項目反応理論** (IRT : Item Response Theory)
  - ① 採点対象外として出題した問題の評価 (200名以上の受験生からの項目特性曲線 : 難易度と識別度)
  - ② 受験生ごとに異なる出題セット間の難易度調整 (難易度の等質化)
  - ③ 受験生の能力評価 (IRT標準スコア)

## ➤ 歯科医師国家試験

- ✓ 事前に問題の評価ができないために事後に評価する
- ✓ 採点除外問題
  - ① 正解が複数存在 : 複数正解
  - ② 必修問題 : 「問題としては適切であるが、必修問題としては不適切」 → 正解者は正解として扱い、不正解者は削除
  - ③ 一般問題 : 「選択肢の表現が不十分で正解を得ることができない」「設問が不適切で正解が得られない」「選択肢に誤りがあり正解が得られない」
  - ④ 採点除外問題 : 17題 (112回)、15題 (111回)、8題 (110)

# CBT問題の質の保証(2)

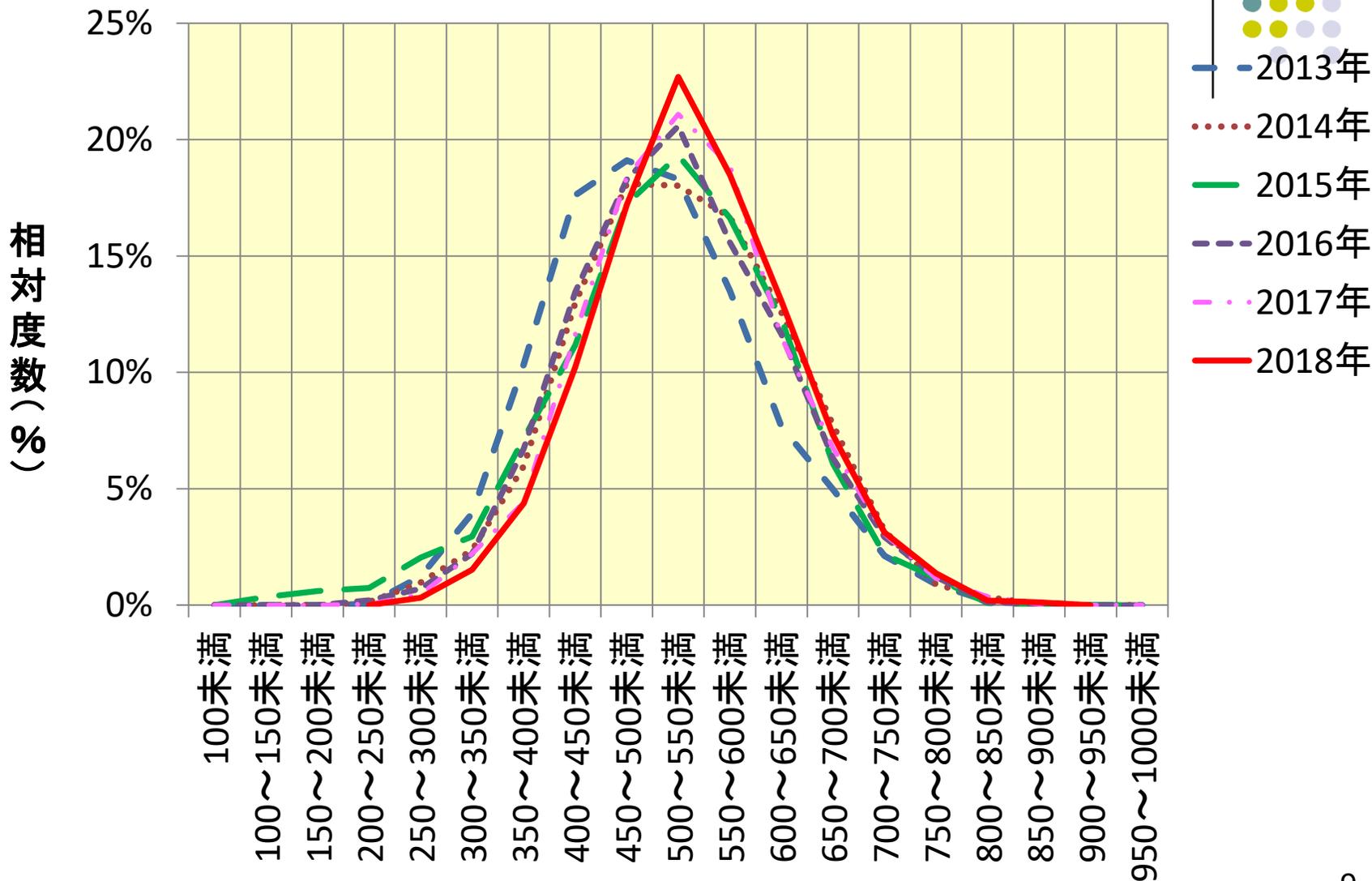


## ➤ 共用試験CBTの質保証

- ✓ 良質な問題の作成→各歯学部の問題作成依頼  
(各大学FD講習会講師の派遣・全国説明会の開催)
- ✓ 良質な問題のプール
  - ① 歯学部委嘱教員による機構でのブラッシュアップ
  - ② 機構内「問題評価・プール化委員会」でのブラッシュアップ
  - ③ 採点対象外として出題問題の事後評価(正答率、受験生からの審議依頼問題の評価)
- ✓ 採点問題のプールとセットとしての評価
  - ① 出題問題の特性変化の検討→大幅に正答率が変動した問題の削除(復元本により問題の漏洩?)
  - ② 問題の記載法の変更に対応→症例(人名、検査値など)の記載法
  - ③ 受験生から審議依頼問題の検討→トライアルだけでなく採点評価問題として出題した問題にも実施
  - ④ 出題セット作成前に出題可能問題の確認
  - ⑤ セット組の問題の再度の確認→実施小委員会委員等による総覧を実施
- ✓ 試験信頼性向上専門部会
  - ① CBTによる評価の妥当性を検討
  - ② 2か月に1回開催(CBT・教育測定学・統計学・テスト理論の専門家による検討)

## ➤ 以上のステップにより良質で評価可能な問題が出題されている

# 年度別IRT標準スコアの分布



# 共用試験 歯学系OSCE課題一覧

## 1. 初診面接

- 1-1 初診患者の医療面接(急性症状)
- 1-2 初診患者の医療面接(慢性症状)

## 2. 基本的診察および検査能力(1課題)

- 2-1 口腔内状態の記録
- 2-2 バイタルサイン
- 2-3 頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察

## 3. 基本的技能(1課題)

- 3-1 浸潤麻酔
- 3-2 手洗いと滅菌グローブ装着
- 3-3 ラバーダム防湿
- 3-4 概形印象採得
- 3-5 心肺蘇生

## 4. 説明・指導(1課題)

- 4-1 歯周病の病状の説明
- 4-2 ブラッシング指導
- 4-3 欠損補綴の治療方針の説明
- 4-4 保護者へのブラッシング指導
- 4-5 保隙装置の説明
- 4-6 矯正装置の説明
- 4-7 エックス線撮影の説明

## 5. 基本的臨床技能(2課題)

- 5-1 レジン充填
- 5-2 根管治療
- 5-3 支台歯形成
- 5-4 テンポラリークラウンの作製
- 5-5 普通抜歯
- 5-6 フッ化物塗布
- 5-7 予防填塞
- 5-8 縫合
- 5-9 スケーリング・ルートプレーニング
- 5-10 修復用隔壁の装着
- 5-11 う蝕象牙質の除去
- 5-12 レストシートの形成

# 適正な共用試験OSCE 運用のために

医道審議会歯科医師分科会

資料  
2

令和元年10月28日

## 実施小委員会

3点セット（課題シート・評価シート・  
評価マニュアル）・実施要項・Q & Aの  
改訂、課題配置、外部評価者配置、  
機構派遣監督者配置、各種問い合わせ対  
応、新作課題策定 等

## 事後評価解析小委員会

試験結果の評価と解析、  
実施後調査票（実施大学）、  
機構派遣監督者報告書、  
外部評価者報告書

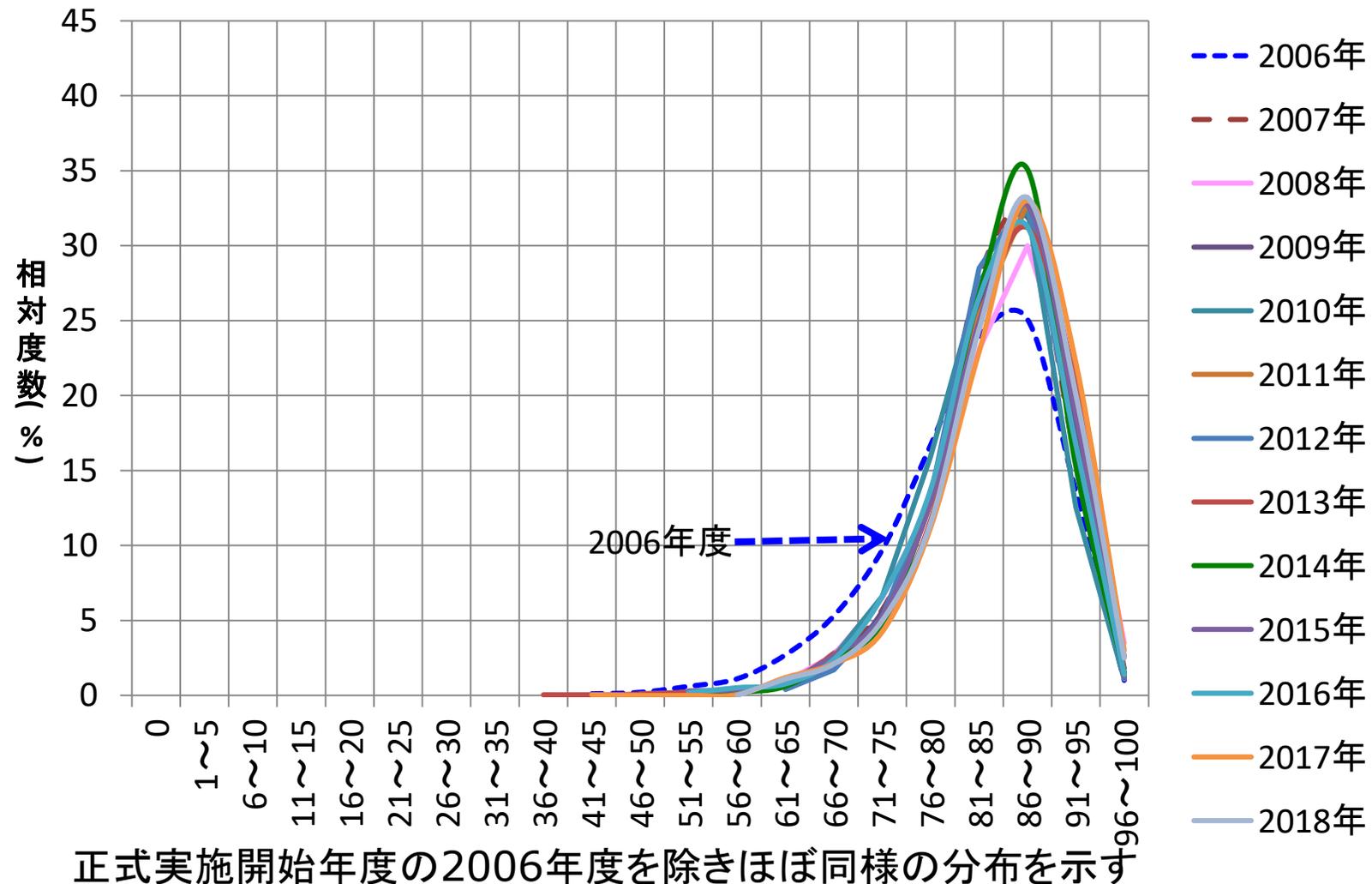
試験信頼性向上専門部会

FD専門部会

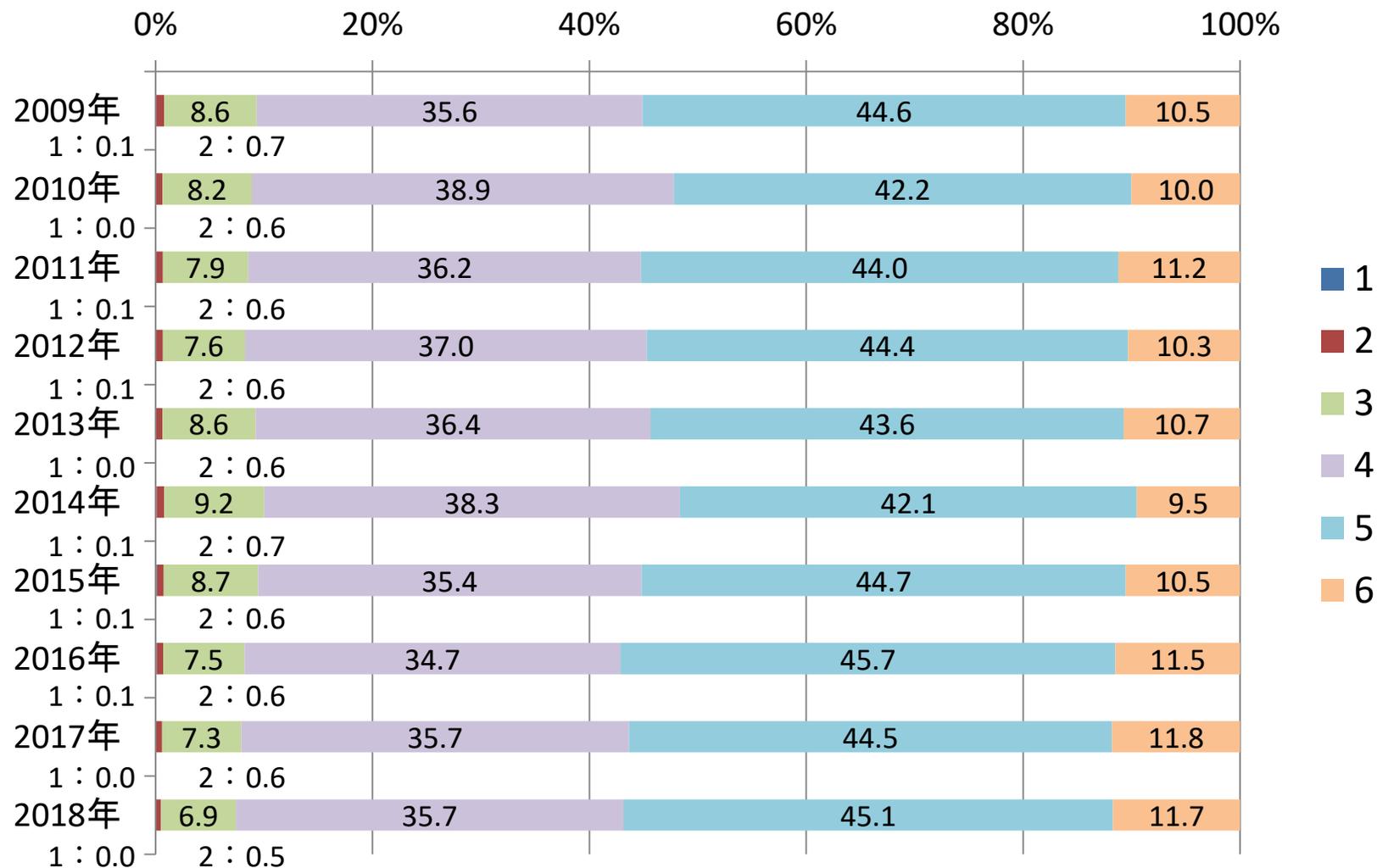
共用試験OSCE評価者（外部・内部）養成  
評価者養成WSの企画・運営 等

共用試験OSCEは年々、進化し続けている  
毎年の各種フィードバックから、実施要項、3点セット、Q & A等を改訂

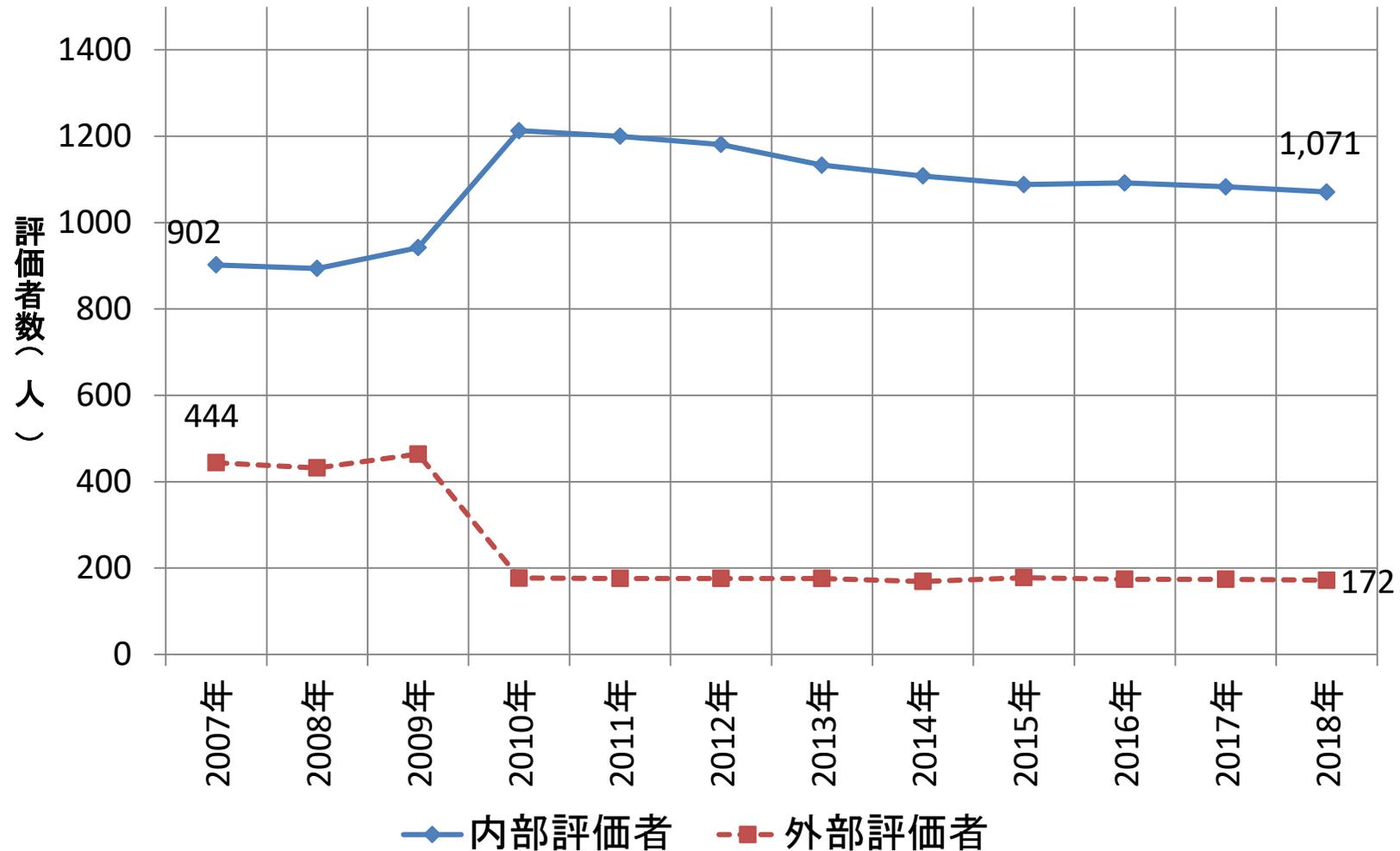
# 総得点の分布の年次推移



# 全評価者が評価した概略評価の分布の年次推移

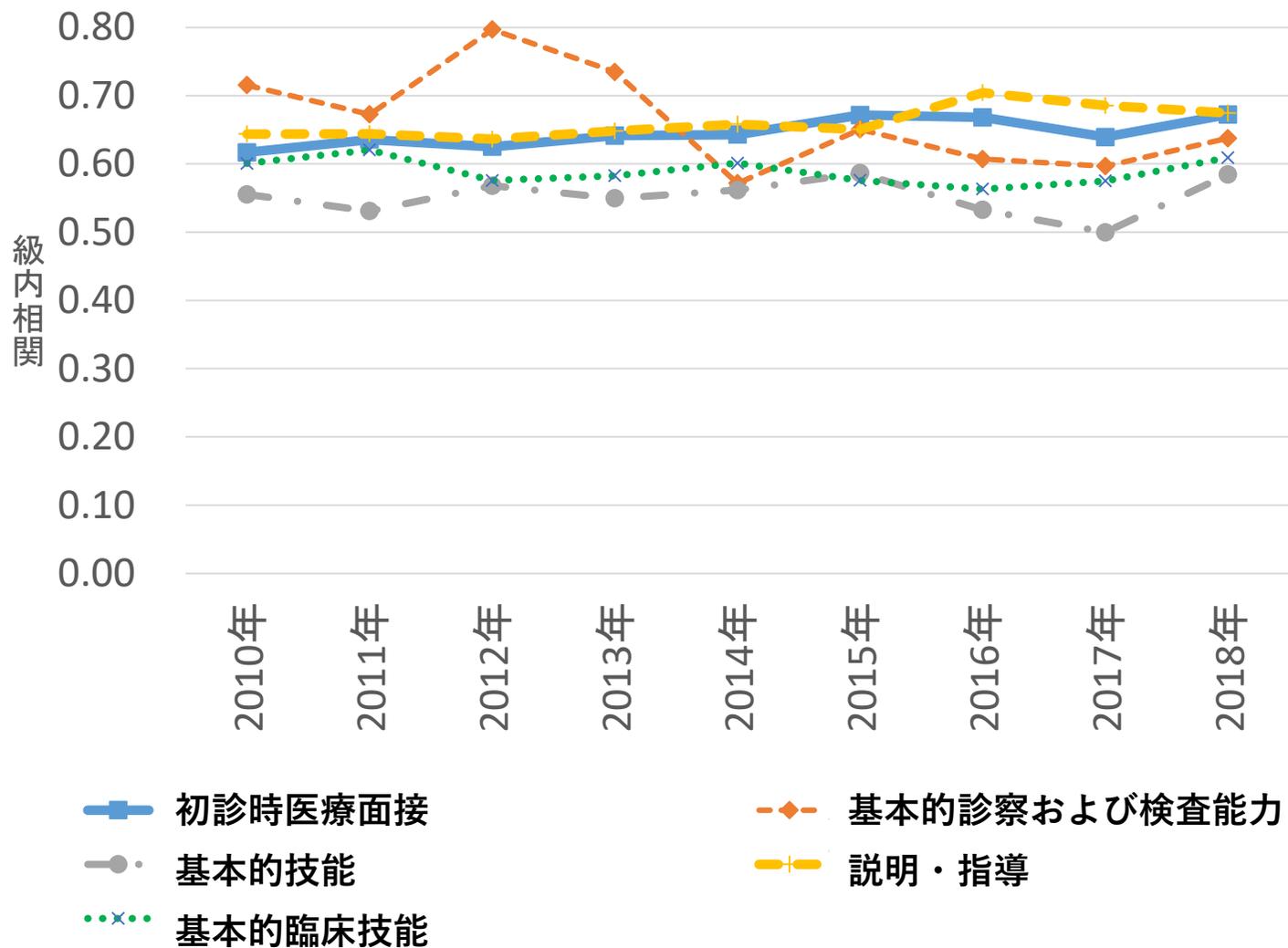


# 内部／外部別延べ評価者数の年次推移



# 5名以上評価した評価者ペアの級内相関の 年次推移

医道審議会歯科医師分科会	資料 2
令和元年10月28日	



## 歯科医師卒前臨床実習指針に関する調査研究

(厚生労働科学特別研究 主任研究者 江藤一洋 (平成15年3月))

- 医科における卒前臨床実習については、既に「臨床実習検討委員会最終報告」(平成3年5月13日、厚生省健康政策局臨床実習検討委員会)において、臨床実習の在り方に関する考え方の整理が示されており、**歯科の卒前臨床実習においても、その基本的な考え方については共通するもの**であるとされている。
- 歯科医師卒前臨床実習については、患者の同意の下で、歯科医師としての資質向上を目的として卒前教育の一環として行われるものであり、侵襲性が相対的に小さいことや指導医の指導・監督の下に行われることなど、適正な体制の下に相当な手段で実施される場合には、社会通念から見て相当であり、歯科医師法上の違法性は阻却される。
- 適正な実施にたる具体的な条件として、
  - ①患者の同意の下に実施されること。
  - ②侵襲性が相対的に小さいものであること。
  - ③指導医の指導・監督の下に実施されること。
  - ④実習計画の策定、指導医の資格、指導体制の確立、診療録の管理等につき適正な対応が行われていること。
  - ⑤**学生の技術力**が確保されていること。
  - ⑥万が一事故が生じた場合に適切に対応できる体制が確立されていること。
  - ⑦各実習項目に応じた教育評価法が確立されていること。

の7点が必要とされた。

# 歯学教育における臨床実習の内容と分類

## 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」(平成28年第4次改訂: 文部科学省)

- 診療参加型臨床実習の推進・充実のために「G 臨床実習」の別表として「**臨床実習の内容と分類**」を明示。
- 歯学生が卒前に行うべき臨床実習の内容について、指導者のもとで実践する立場から考慮し、臨床実習→臨床研修→専門医**教育の連続性**について検討して、それぞれの到達目標を見据えたもの。

### ※「G 臨床実習」(別表)臨床実習の内容と分類(一部抜粋)

Gの項目		I. 指導者のもと実践する (自験を求めるもの)	II. 指導者のもとでの実践が望まれる (自験不可の場合は シミュレーション等で補完する)	III. 指導者の介助をする	IV. 指導者のもとで見学・ 体験することが望ましい	
1 診療の 基本	臨床診断・ 治療計画	診断と治療計画の立案(咬合が安定している)	診断と治療計画の立案(咬合を安定させる処置が必要)			
	病態写真・ 模型	口腔・顔面の写真撮影、研究用模型の製作				
	診療録・ 処方箋	診療録の作成、処方箋の作成、技工指示書の作成		診療情報提供書(医科診療所・病院・病院歯科・施設宛て等)の作成	手術記録・麻酔記録の作成	
	医療面接	医療面接(成人)	医療面接(高齢者)	医療面接(小児・障害者等)	医療面接(救急処置の必要な場合)	
	バイタルサイン	血圧・脈拍・呼吸・体温の測定			救急処置の治療	
	頭頸部・ 口腔の診察	頭頸部・口腔の視診・触診・打診・聴診				
2 基本的 診察法	画像検査	口内法エックス線撮影	パノラマエックス線撮影	口外法エックス線撮影、頭部エックス線規格撮影、 歯科用CBCT	CT、MRI、超音波検査、造影検査	
				塗抹検査	採血、血液学検査、免疫学的検査、生化学検査、一般細菌検査、心電図検査、呼吸機能検査、心理学的検査、止血機能検査、末梢神経機能検査	
	臨床検査	温度診、電気診、透照診		齲蝕リスク検査		
		根管長測定		根管内細菌培養検査		根管内視鏡検査、実体顕微鏡による検査
		歯周組織検査(歯の動揺度検査、歯周ポケット検査、ブラーク指数測定、歯石指数測定、出血指数測定)				口臭検査
		咬合検査		咀嚼能率検査	唾液分泌能検査、顎口腔機能検査、舌圧検査	金属アレルギー検査
				嚥下機能検査	17	
				細胞診検査、病理組織学的検査		

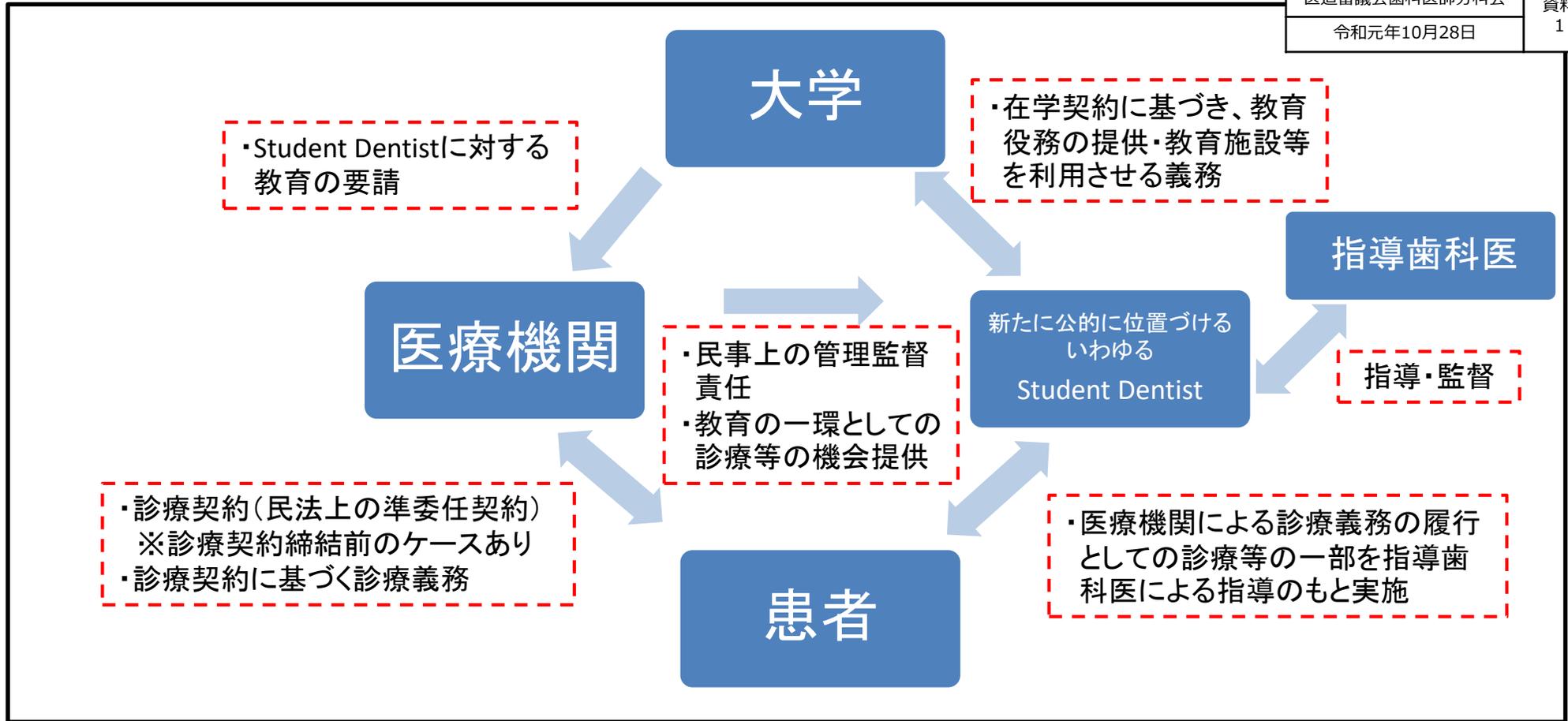
# 新たに公的に位置づけるStudent Dentistの行う歯科医行為についての法的整理(案)

医道審議会歯科医師分科会

令和元年10月28日

資料

1



診療契約は患者と医療機関の間で締結されるものであり、いわゆるStudent Dentistに関しても、勤務歯科医の場合と同様に、医療事故が起こった場合の民事上の責任の所在は第一義的には医療機関にあると考えられる(ただし、不法行為上の責任は指導歯科医・Student Dentistにも生じ得る)

※Student Dentistは、医療機関の診療義務の一部の履行として診療行為を実施しているものであり、労働契約の有無にかかわらず、勤務歯科医の場合と同様に、民事上の債務履行の責任は医療機関にあるもの  
※刑事上の責任は、行為者である勤務歯科医や指導歯科医、Student Dentist(あるいは診療の補助を行なうコデンタル)に生じうるもの

## (参考)勤務医の診療等に関する法的整理

